

第6回 中心市街地のグランドデザインを考える分科会記録

日 時 平成21年10月6日(火) 19:00～21:00

場 所 小田原箱根商工会議所 4階 相談室

経 過

佐谷アドバイザーより、初回の勉強会において出た意見等を確認した後、各エリアの特色などについて、出席者より意見交換がされた。主な意見は下記の通り。

【山王】

- ・山王＝江戸の門
- ・山王の川沿いは道が狭いが、花は沢山ある。緑も良いが水と花で誘客をしても良いのでは。こだわった商店が路地に複数あると人は訪れる。それと同じで町内会や商店街、学校と組んでやってみようか。その中で神社やお寺の方たちも感動的な見せ方をさせていただけると良いように思う。
- ・山王神社あたりは風情がある。山王神社の松は小田原八景のひとつ。

【寺町】

- ・寺町＝足柄の門
- ・寺町はお寺中心で考えていくエリア

【井細田】

- ・井細田はゴチャゴチャしているがそこが面白い。東海道で分断をされているイメージはあるが、やはり同じイメージ。再発見できると思う。
- ・井細田の商店街はかつての城下町を支え、足柄を支えていた。職人の家がかかなり残っていた。(時計屋・桶屋・染物屋など)これらの多くの方々が明治以降小田原に進出していった。
- ・ユアサの建物にアーティストを呼んで工房・アトリエにしても良い。井細田のような古い商店街に若い変わった異分子を入れたら面白い。(金沢の犀川ほど綺麗でなくとも)
- ・横浜でも倉庫を改装してスペースを貸し出して、そこに東京芸大の人たちが展示をしている。小田原でも芸術系の大学とタイアップして何かが出来れば。

【松原神社周辺】

- ・松原神社＝海の門(蒲鉾屋があったのは、もともとここに漁業があった)
- ・小田原の街にあって欠けているものは「海を感じない」ということがある。水をテーマに何か開発できれば。
- ・松原はターミナル(中心に考える)
- ・外側から訪れる人のターミナル機能。歴史的な道の駅のような。
- ・そこに車を停めて、パークアンドライドで街を回遊させられれば。
- ・現在のプールの位置付近にPAのようなものを設置し、人がそこで車を降りて町に出ることができたら。
- ・降りることができれば、周辺にかまぼこ通りや鯉節のお店などのがある。その辺りとターミナルの中から道の駅的な散策できるものになれば。

- ・以前、宮小路界隈を若者の町にできないかと考えていた。YMC A等の宿泊地に出来たら。西湘バイパスと防波堤の間をパーキングスペースにできないかとも。また国道1号線は拡幅して、仙台の並木道のようなものを作り、松原神社は祭り空間のような形で悠久空間に。単に色街ではなくヤングタウンになれば・・・と。
- ・松原神社界隈が持っている小田原や足柄平野の心を集める(神社は遊びのイメージもある) そういう拠点があっても良いのでは。
- ・駅中心、東通りが飲み屋街になり、宮小路がさびれて飲み屋街になってしまった。かつての宮小路や遊郭は小田原の拠点性の中で存在した。それが希薄になってしまっている。ふらふらと道路を楽しめるような道路計画を伴いながら松原神社界隈が作れたら。

【南町】

- ・西海子通りは文学のイメージ。

【板橋】

- ・板橋＝箱根の門
- ・板橋は昔の職人町のエリアのイメージ
- ・板橋の用水は活かしたい

【城山】

- ・城山は学校もあり居住スペースとしては小さい。居住者は多いが坂が多いので、板橋の上の分譲地に住む人は買い物の不便さから平地に引っ越したがっているという声を聞く。
- ・景色は良いが(別荘みたいな形か)
- ・高台は軽自動車が1台通れる程度で不便。
- ・学校や研究所向きなのか。
- ・城山は経済水準が高くないと住めないエリア。ハイソサエティなイメージ戦略か。
- ・上から見下ろすのは景色が良いが、下から見上げると家々が多くあり、見た目に良くない。最小の土地のサイズを60坪や70坪にして建ぺい率を下げた平屋・一部2階建てを許すような、都市計画法の第1種低層住居地域よりも厳しく、箱根町の自然公園法まではいかないような住宅地にしたらどうか。
- ・城山4丁目では住民で自主規制を作っている。
- ・マンション8階建ての計画を中止にさせるなど住民の意識は高い。
- ・各地域で「こうしたい」というのがあればそれを応援したい
- ・MRA跡地に大外郭の一部が残っている(城山4丁目)。
- ・あのエリアには旧城内高校も空いている。競輪所がなくなった場合、城内高校とともに大きな敷地利用が出来る。
- ・旭丘高校が移転すると良い(ユアサ跡地など)
- ・図書館や美術館などの収蔵機能を今の競輪所の辺りに集積して、競輪所を現存するのではなく薪能ができるようなコロシウム(野外劇場)や文化会館ができないものか(文化庁の関係で図書館などはいずれ移転をしなくてはいけない)音や照明の問題はある程度考えるべきだが。
- ・もともとは小田原藩の練兵所だった。それが梅林になりグラウンドになり競輪所になった

【その他地域】

- ・住むにあたっては空白地の栄町4丁目辺りや社会福祉事務所周辺の住宅地を居住スペースにして、商業スペースは駅前(銀座通りぐらまで)にコンパクトに集積したらどうか
- ・お城は三の丸。国道1号線沿いまでがお城というイメージ。
- ・小田原城＝北條のイメージになってしまっている。実際は異なっていたとしても時代背景的に、文学は明治時代なのでそこをうまく分散させて面白みを出せれば。
- ・一つの時代に固執する必要はない
- ・駅前は壁(ビル群)に囲まれて谷間になってしまっている。そんな駅前の顔はどうなのか。建物も老朽化してしまっている。そのような中で中高層のビルは建てなくても良いのではないか。もっと小田原の雰囲気を出す顔のあるの街にしたらどうか。大工町界限には街づくり会社などを作っても良いのではないか。そして銀座通り・国際通りを繋げていったらどうか。三の丸は現在住宅が多く建っているが、これは公共空間にしていく。あくまでも、この三の堀の中が小田原の城内。城内の風格を出すべき。また、このエリアは家老クラスの屋敷だった。単に住居ではなく、藩の役所事務機能をもっていた。(こういう意味では公共的)お城との関係でこの辺りは文化的なのか。
- ・駅前に小田原らしさを演出するものとして、朝どれふぁ～みのような施設があれば。

【居住エリアについて】

- ・居住スペースとしては国際通りか。国道1号線から南は高層住居にはしたくない
- ・ゾーニングとしては住宅街のイメージで考えている。南町界限は一戸建て住宅を考えている。新玉の方は柏木鋳物もあるので住宅を伴った若者や或いは企業地・産業地に考えられないか。万年町界限は中高層の団地がある。青物町界限は屋敷町という視点で、同じ中高層でもそういう輪郭をもたせる住宅地にしたらどうか。そういった住宅地の背景をもって松原神社界限があるような。街の中に徒歩500mぐらいのところにならぬ日用の買い物ができるお店があるかたちになるのか
- ・大工町は小田原ICとの関連が密接だろうと思う。この辺りは街づくり会社が考えても良いのかと思う。

【交通・パークアンドライド・回遊性について】

- ・山王は完全IC化すべき
- ・小田原は車を入れない計画をしてきた。しかし車が入って回遊性を持ってくれば良いこと。車を規制するのも良いが、パークアンドライドをどう見るか。
- ・西湘バイパスからは小田原の市街地に出ることができない。また、小田原厚木道路の「荻窪IC」の名称に疑問。東・西があって、なぜ「小田原中央」ではないのか。名称を変える必要もあるのでは。小田原の街へ入るのにはあそこが一番近い。
- ・駅から距離のある松原神社までどう回遊させるか。海側にかまぼこ通りがあるのでイメー

ジ作りをしたら。

- ・ 駅から松原神社方面へシャトルバスを出すなどして回遊させた方が良いのでは。(単にお城に行くだけになってしまう)
- ・ 以前の路面電車を再現するなど、レトロ線を持つのも意味があるのではないか
- ・ 人は無理やり引っ張って行っても効果はない。(そこに魅力がないと)
- ・ 電気自動車を設置したらどうか。駅前の再開発の所に駐輪所を作るようになるだろうから駅前と魚市場、西湘バイパスの山王の出口付近、ゴルフ練習所に置いても。あそこは県が土地を貸しているだけ。
- ・ 駅から松原神社まで回遊させることが出来れば魅力が広がる。
- ・ 観光客による経済効果がどれだけあるかを考える。
単に見て歩き・・・ではなく、日常的な力を持っていたほうが良いのではないか。ただそれなりの風合いが出来ればお城と松原が広い意味での民間的な心のよりどころとなるのでは。

【道・路地・水と緑、花・ポケットパークなど】

- ・ 東海道と甲州道で結ばれた街にやはり人が歩く道を絡めたい。
板橋の旧道や井細田の商店街、あそこは小田原で唯一曲線が続く街。曲線が連なるというのは、奥行きや変化が楽しめて建物が立体的に見える。これをどう歩いて繋げさせていくかを思案すると「板橋のお地蔵さんの裏道の方から海側に出て、かまぼこ通りを歩き、山王へ出て、山王川沿いに歩いて行く・・・」山王川沿いには桜が少し植えられているので、もう少し植えたい。あそこの回りこそ道路を広くし、川沿いを上がれるようにすると人の歩く回遊路ができる。
- ・ 街づくりを考えたとき、水と緑は美しくないといけない。既存の街があったときには今ある風景をどう美しくさせるか、その積み重ねが必要。それをやっていきたい。
具体的にはどうするのかというと、公共の土地であるなしに限らず100個のポケットパークを作るプロジェクトをしたら。土地が空いたら自治会で協力してポケットパークを作るなど。それを道の間に挿入して角々をデザインしたら。
歩く道というのは東海道や川沿いなど、車の太い幹線道路がある。そうすると車の幹線沿いの既存の駐車場に駐車して、そこから歩いて歩道に入れるようにすれば、どこからでも出入りできるというシステム。そういうのができたら面白い。
- ・ 4つのキーワード(山王・寺町・松原・板橋)があるが、美しい風景を作ることが重要。
- ・ 既存の神社やお寺の活用も大切。一種の祭りの演出のような。
- ・ 日本の文化は道の文化。それに対して、町屋・店というものがあって、店というのが井戸端会議のたまり場でもあった。それが現代版としてポケットパークとして出来れば。
- ・ 日本ではポケットパークは小さい公園とされているが、そうではなく囲まれ感があるもの。(そこに入ると雰囲気が変わるような)
- ・ かつては通りに面したところが一つの町で、用水が街割りの役目を果たしていたが、住宅が侵食したりコレラが発生したりで用水が失われてしまった。用水路とポケットパークをセットにした演出できれば楽しいのではないか。
- ・ 松原神社周辺、繁華街で猥雑間があるのも良いと思うが、一つは小田原の街に無い、ちゃんとしたホテル・水をテーマにしたようなホテルを作るのもプランとしては面白い

- ・外を囲わないとエリアが定義できない。内部は通りでみていった方が良い。学校や町内会を大切にしながらやっていかないと。この中から人が消えてしまうと結節点ではなくなってしまう。
- ・見せ方の演出の取り掛かりとしては「角」が重要。
オセロゲームのように、両側に黒をすえると全部が黒になる。街をデザインしたときに「角をアドレスする」という。このアドレスは「表現する」という意味。
- ・以前、旧町名を活かせないかという話が持ち上がったが、角々に旧町名入りのちょうちんを掲げれば町名の意識も出てくるのではないか。
- ・小田原の夕暮れ、陰影の空間を演出として、宵の散歩道としてちょうちんが道しるべになるのでは。
昔ながらの路地空間は代官町周辺しかない。(車の入れないような)
- ・ベニスの通りは曲がりくねっていて色々な発見がある。小田原ではかまぼこ通りがそれにあたるのでないか。
- ・人の動く通りに質の良い休める空間があると良い。(歩く気になる)
- ・だからこそ、人が歩く道を幹線道路横に作り、パーキングできるようなスペースを利用して歩く道に繋ぐことができれば、そこで初めて来た人と住む人が出会うようになる。
例えばポケットパーク内で、中の人を訪れた人に振る舞い等ができれば街としては素敵。
- ・山王川の所は入海になっている。かつて井細田は港町という機能があった。山王川の入海、土手の花の地(新玉小近く)これは1700年代の小田原の原風景。町田小学校の辺りまで水が入ってきていた。(徹底的に埋めてしまったのは関東大震災の後)大外郭の外を埋め立て、宮小路を新開地に移した。それがあったので井細田があり、遡ると北條幻庵の屋敷がある。また小田原北條の大蔵は今の少年院にあった。
- ・整理するとしたら中の路地。それをどう繋げていくか。
- ・小田原の路地はまっすぐに伸びる。それはかつて馬場だったから。江戸期と明治以降分譲されてからの路地は、直線とジグザグの線で異なる。小田原は路地空間が弱い。

【その他】

- ・観光的には4箇所(山王・寺町・松原・板橋)をターゲットにして間を抜いていくと良い。ゆったり感とまちあるき感のイメージがあれば。
- ・各個店がどういう捉え方をしているのか。こちらがイメージを提案してどれだけ実現化できるか。公共的なところで行政側が駐車場や車の置けるエリアなどの策を提示するなど・・・大変大掛かりなことだがそこまで考えなくては。
- ・歴史の流れで変わってきたものを戻そうとするのは大きな力が要るが、小田原には高いポテンシャルがある。(内外に見ても)
- ・事業仕分けの中に文学館が出ていた。図書館の話が出たときに横浜の方から「なぜ北原白秋の所に寄せないのか。勿体無いのでは」という話が出ていた。魅せ方を考えるべき。白秋は童謡。横浜の小学校などアピールすれば来るのではないか。

次回は、4つのポイント(山王・寺町・松原・板橋)を中心に、山王・寺町・松原で結ばれた線の内部など、既存のもので良いものがあればそれを繋ぐ作業をしていくということで、外枠の各ポイントを繋ぐ箇所や中の路地空間を写真撮影してイメージ作りをしていく。

よって、エリアごとに担当者を振り分けて各々で写真を撮り、それに番号を付けるか場所等のコメントを入れたものを製作し、次回勉強会(10/19)までに持ち寄ることとなった。写真は膨大な量になるので、羅列した形でストックをし、必要なものだけをピックアップしていく。まずは、良き小田原の雰囲気のあるものを写真に収めていく。

以上

<当日出席者> *順不同・敬称略

岩瀬照子、櫻井泰行、小野意雄、金井俊典、平井義人、佐藤慎一